

NPO法人 ウィッグリング・ジャパン

抗がん剤治療に向き合う女性のためのウィッグ支援

がんと闘う女性のための頼もしい味方

現在、がん治療に有効とされている抗がん剤治療。しかし、副作用として脱毛するケースが多いのは否めない。「髪は女の命」という言葉があるが、そんな女性がん患者にとって髪を失うということは、精神的に負担も大きく、心に計り知れないダメージを引き起こしてしまふ。抗がん剤治療と向き合う女性が強く美しく生きるために、ウィッグ(かつら)の無料レンタルを始めたのが2010年のこと。きっかけは、代表理事の上田さんの友人ががんになったことが始まりだった。

ウィッグを通して広げる心のケア

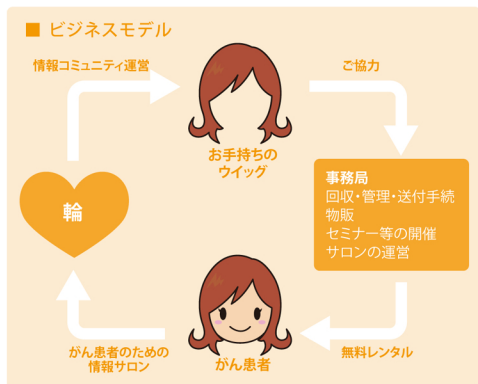
「元気になって、自分も次に渡したい」と、友達が喜んでくれたと話す上田さん。がんを克服した知人が使用しなくなったウィッグを持っていたので、それを譲り受けて友達に貸したときの出来事だった。医療用のウィッグは軽くて通気性もよく、レントゲン検査に支障がないなどの機能性を持っているが、高額のものが多い。経済的な負担が少しでも軽減できれば、女性患者の心と身体は随分楽になるはず。前職の仕事柄、医療機関のネットワークを持っていた上田さんは、現サロンスタッフである元がん患者たちのネットワークとコラボすることで、困っている人を繋ぎ、女性を笑顔にしたいと考えるようになった。

若い世代に広がるがんと、早期検診のススメ

元がん患者から使わなくなったウィッグを提供してもらい、がんと闘っている女性へ再提供。がん治療を乗り越えた強くなやかな女性たちからのエールは、ウィッグという形で患者へ勇気と笑顔を届けている。「ウィッグリング・ジャパンは、がん闘病をひとつのキャリアと捉えているんです」と上田さん。というも、レンタルの対応を行うサロンのスタッフは全員元がん患者。経験があるからこそ、闘病中の相談や悩みなども理解できると考えている。そして、今後も元がん患者の雇用へと繋げていきたいと目標を抱く。活動を始めて2年。サロンに訪れる人たちを見てみると、20代や30代の人が目に見えて増えているという。その中には「早く検診に行けばよかった」と何かしらの異変に気づいていた人も多い。2012年には、どこで医療情報を得たらいいのかわからないという人のための「私の保健室」を始動させた。今後は行政との連携の可能性を探ったり、人材不足や協賛金などの問題を解消しつつ、活動の輪を広げていきたいと意気込んでいる。



ウィッグの数は500個以上。賛助会員(入会金2100円、年会費3150円)になれば、一年間無料でレンタルできる



福祉
教育
まちづくり
健康
子育て
国際
食育
美容
伝統
環境
中間支援

団体プロフィール

NPO法人 ウィッグリング・ジャパン

- 代表理事 上田 あい子
- 住所 福岡市中央区天神2-2-13
- 活動開始 2010年7月
- サンペアービル3F
- 法人設立 2011年7月
- TEL 092-725-6623
- 営業 毎週月曜と第4土曜11:00~16:00



代表理事
上田 あい子